



Mucha ミュシヤ 森アーツセンターギ ャラリー(六本木) 2013年3月9日～5月19日 3/10 記

Alfons Maria Mucha アルフォンス.M.ミュシヤ (1860.7.24～1930.7.14)は、舞台女優サラ・ベルナルと出会い、彼女のポスター「ジスモンダ」(1895)でデビュー。「椿姫」「トスカ」「メディア」のポスター、シェイクスピア劇の舞台衣裳、本の挿絵等を手掛けた。パリ万博で一躍時代の寵児となった彼は、専属契約を結んだ企業のチョコレート、煙草、シャンパン、自転車、香水瓶等のポスターやパッケージの他、装飾品のデザインを手掛けたが、彼は一部の業界のためではなく、民衆のための藝術を目指した。直線よりも人の目に優しい曲線に重きを置き、絵の中にはチェコの民族的文様を描いた。それはオーストリア領に生まれたチェコ人である彼の祖国愛である。美しい女性の華やかな絵で知られるミュシヤであるが、美を描くのと同時進行で「死」をも描いている。彼の求めたものは「民衆の平和な生活」だった。当時のチェコスロバキア共和国誕生までの苦難の道程。彼の内なる思いに是非注目してください。



故国チェコに帰ったミュシヤが描いた壮大なスケールのスラヴ民族の歴史『スラヴ叙事詩』20点。彼の構想はアメリカで聴いたスメタナの連作交響詩『わが祖国』によって力づけられた。